

オリジナル紙芝居

【エジソンの一生】

M・Oさん



エジソンは、いまから130年ほど前、アメリカのミランという町で生まれました。子どものころは、とても元気な子で、何よりも、知りたがりや・調べたがりやで、大人がいないと何をしだすか分からないほどでした。



エジソンは、学校に行くようになっても知りたがりやで、いろんな事を聞くため、先生にきらわれ、エジソンも学校がきらいになりました。かわいそうに思ったお母さんが、元先生を生かして、エジソンに勉強を教える事にしました。



12さいになり、お母さんの学校を卒業すると、エジソンは、大人として、鉄道列車の中で新聞などを売る仕事をしました。新聞はよく売れるので、15さいの時、仕事の合間にニュースをあつめ、「しゅうかんヘラルド」という新聞を作りました。「しゅうかんヘラルド」は、よく売れました。エジソンが世におくりだした初めての物と言えるか



やがてエジソンは、「発明王」とよばれるようになりました。ちく音きを発明した時、みんなにひろうしました。「メリーさんのひつじ、白いひつじ・・・」とハンドルを回しながら歌を歌いました。そして、とくにまたハンドルを回した時、「メリーさんのひつじ、白いひつじ・・・」なんとエジソンが歌ったそのままが聞こえてくるのです。



そして、1879年エジソンの一生で一番大きな発明品ができようとしていました。エジソンは、ふるえる手でスイッチをおしてみると・・・あたりがぱあっと明るくなり、「ついたぞ！」はずむ声がひびきました。電球の完成です。エジソンは、ただその光を見つめました。この世界さいしょの電球は、45時間かがやきつづけたのです。



この電球発明のうれしいニュースは、アメリカはもちろん、世界にしれわたりました。この年のおおみそかには、研究所の庭の木という木に何百もの電球がつけられ、電球のたん生会が始まりました。いっせいに電球がともされ、「なんと、まるで昼間のようだ！」はく手がその夜なりやみませんでした。



このようにして、エジソンが発明した物は、千いじょうあるといわれています。電球も、ちく音きも、えいがも、エジソンが発明した物です。人々によるこんんでもらいたかったのでしょうか。発明した物は、みんな人の役にたつ物ばかり。けっして、人間を不幸にする戦争の道具など発明しようとはしなかったのです。

そして、1931年エジソンは84さいの一生を

END

